

平成24年度 北九州市立高須中学校 「自己評価・学校関係者評価結果報告書」

本年度の重点目標			
重点目標 1	基本的生活習慣、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	重点目標 5	集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育を推進する。
重点目標 2	基礎・基本の確実な定着、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	重点目標 6	楽しい学校生活を実現し、生徒一人一人の自己指導能力を育成と自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する
重点目標 3	生徒一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実を図る。	重点目標 7	生涯を通じて心身ともに健康で活力ある生活を送るための健康教育を推進する。
重点目標 4	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	重点目標 8	学校の下さや特色を積極的に発信し、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。

北九州市立 高須 中学校
校長 江口 満

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
①	基本的生活習慣（「挨拶・掃除・身なり」と「早寝・早起き・朝ご飯」）、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	基本的生活習慣の確立を図る。	生徒指導	さわやかな挨拶ができるように、朝の挨拶運動に力を入れる。	A 90%以上の生徒が挨拶できる。	生徒が自主的に挨拶をするように指導した。中間No.1	3.4	A 自分からすすんで挨拶をする。	3.3	A 自分からすすんで挨拶をする。	3.4	毎朝、登校時に職員による登校指導を実施した。また、生徒会執行部によるあいさつ運動を定期的実施した。	既存の取組に加え、日常での挨拶や集会での挨拶がより元気づけられるように指導に当たった。		
					B 70%以上の生徒が挨拶できる。			B 時々自分から挨拶をする。		B 時々自分から挨拶をする。					
					C 50%以上の生徒が挨拶できる。			C 声をかけられれば挨拶をする。		C 声をかけられれば挨拶をする。					
					D 挨拶ができる生徒は50%未満である。			D 挨拶をしない。		D 挨拶をしない。					
			美化委員会	職員が模範となって清掃指導に取り組み、清掃に対する生徒の意識を高めていく。	A 90%以上の生徒が掃除ができた。	毎日の清掃指導を行った。中間No.2	3.7	A 自分からすすんで掃除をする。	2.4	A 自分からすすんで掃除をする。	2.6	A 自分からすすんで掃除をする。	3.2	全職員による清掃指導を徹底し、協働して取り組むことができた。工事のため掃除区域が狭く、人があまって掃除しにくい状況があった。	来年度も継続して掃除の徹底を図りたい。来年度も工事のため、掃除区域については課題が残るので適切な掃除区域の割り振りを検討したい。
					B 70%以上の生徒が掃除ができた。			B 時々自分から掃除をする。		B 時々自分から掃除をする。					
					C 50%以上の生徒が掃除ができた。			C 言われると掃除をする。		C 言われると掃除をする。					
					D 掃除ができる生徒が50%未満であった。			D 掃除をしない。		D 掃除をしない。					
			生活指導委員会	登校指導中や朝の会、授業中などで呼びかけを行い、身なりをきちんと整えるよう指導する。	A 90%以上の生徒がきちんとしている。	生徒の身なりの指導をした。中間No.3	3.6	A 自分からすすんで掃除をする。	2.4	A 自分からすすんで掃除をする。	2.6	A 自分からすすんで掃除をする。	3.6	登校指導時や朝の会、授業に行ったときなどに服装の乱れなどを指導した。	指導に素直に従わない生徒に対しては、全職員の共通理解のもと、家庭と連携し、強い姿勢で対応に当たる。
					B 70%以上の生徒がきちんとしている。			B 時々自分から掃除をする。		B 時々自分から掃除をする。					
					C 50%以上の生徒がきちんとしている。			C 注意されることが多い。		C 注意されることが多い。					
					D きちんとしている生徒が50%未満である。			D 注意されても直さない。		D 注意されても直さない。					
保健委員会	保健だより等で早寝・早起き・朝ご飯運動を推進することにより、基本的生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.6	A 毎日、早寝早起きをする。	3.8	A 毎日、早寝早起きをする。	2.7	A 毎日、早起きをする。	2.9	健康観察、保健室の様子から個別に健康指導を行った。また、保健委員会の取組として睡眠時間について調べ発表した。	朝食については全学年9割以上実施できているが、早寝・早起きについては7～8割程度である。次年度も継続した取組を行っていく。			
		B 実施生徒が70%以上であった。			B ほぼ毎日、早寝早起きをする。		B ほぼ毎日、早寝早起きをする。								
		C 実施生徒が50%以上であった。			C 早寝早起きができないことが多い。		C 早寝早起きができないことが多い。								
		D 実施生徒が50%未満であった。			D 早寝早起きができない。		D 早寝早起きができない。								
生活委員会・生徒指導・学習指導委員会	登校指導の声かけや全職員の意識を向上させ、また、生活委員が遅刻点検をするなど、生徒会活動と連携して、継続的に指導を行う。	A 90%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	時間（遅刻をしない・チャイム席・集合時間等）を守るように指導した。中間No.5	3.8	A 朝食を毎日食べる。	3.8	A 朝食を毎日食べる。	3.7	A 朝食を毎日食べる。	3.2	健康観察や保健室の来室状況、アンケートなどから生徒の状況を把握し、状況に応じて保健指導を行った。	より早い時間により多くの職員が登校指導に参加するように心がけていく。			
		B 70%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。			B 朝食をほぼ毎日食べる。		B 朝食をほぼ毎日食べる。								
		C 50%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。			C 朝食を食べないことが多い。		C 朝食を食べないことが多い。								
		D 登校時間やチャイム席を守れた生徒が50%未満であった。			D 朝食を全く食べない。		D 朝食を全く食べない。								
生活委員会・生徒指導・学習指導委員会	各教科で宿題を出し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。	A 90%以上の生徒が宿題を行った。	家庭学習の習慣が身に付くように指導した。中間No.6	3.0	A 家庭学習を毎日7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を毎日7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を毎日7時間以上する。	2.4	生徒の状況に応じて、適切な課題を設定し、提出させて学習指導を行った。	家庭学習の習慣を定着させ、宿題の提出率を向上させる。			
		B 70%以上の生徒が宿題を行った。			B 家庭学習を毎日3時間以上7時間未満する。		B 家庭学習を毎日3時間以上7時間未満する。								
		C 50%以上の生徒が宿題を行った。			C 家庭学習を毎日3時間未満する。		C 家庭学習を毎日3時間未満する。								
		D 宿題を行ってない生徒が50%未満であった。			D 家庭学習を全くしない。		D 家庭学習を全くしない。								
生活委員会・生徒指導・学習指導委員会	学習道具を毎日持ち帰らせる。家庭学習への意識を高めるよう指導する。	A 90%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。	学習道具は毎日持ち帰らせるとともに、忘れ物をしないように指導した。中間No.7	3.0	A 忘れ物をしない。	3.2	A 忘れ物をしない。	3.1	A 忘れ物をしない。	3.1	帰りの会などを利用して、持ってくるものを確認し、学習道具の持ち帰り、忘れ物がないように指導した。学期末などに持ち帰りを徹底した。	家庭学習の意識を高め、学習道具の持ち帰りの必要性をもたせる。			
		B 70%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。			B 時々忘れ物をする。		B 時々忘れ物をする。								
		C 50%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。			C 忘れ物をすることが多い。		C 忘れ物をすることが多い。								
		D 毎日学習道具を持ち帰った生徒が50%未満であった。			D 毎日忘れ物をする。		D 毎日忘れ物をする。								
生徒指導	全校集会・学年集会や講演会などで集団規律の指導を行う。	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上であった。	集団としての規律（整列・私語・集合時間）やマナーが身に付くように指導した。最終No.3	3.6	A 子どもさんは、集団としての規律やマナーが身に付いている。最終No.3	3.6	A 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3	3.3	A 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3	3.3	全校集会や学校行事、学年集会など、様々な場面で集団規律について指導した。	一部の授業不当事態が雰囲気や壊す場面が何度かあったので、指導に従わない場合は別室指導を行う。			
		B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上であった。			B 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3		B 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3								
		C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上であった。			C 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3		C 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3								
		D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満であった。			D 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3		D 集団としての規律マナーが身に付いている。最終No.3								
②	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	学校の研究テーマ「全ての子どもに基礎学力を定着させることを目的とした学習活動の工夫」に基づく学習指導の工夫改善を推進する。	「基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育てる」に基づく学習指導の工夫改善（指導主要事項授業）を推進する。	A 90%以上の教科で指導主要事項を要請した授業研究を実施した。	わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫・改善に努めた。最終No.5	3.4	A 学校は、わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫・改善に取り組んでいる。最終No.5	2.6	A 授業が工夫されていてわかりやすい。最終No.6	2.8	指導主要事項の研究授業を実施し、授業力の向上のため最大限努力した。	次年度は全教科による指導主要事項の研究授業を実施し、教師の指導力向上を図る。			
				B 70%以上の教科で指導主要事項を要請した授業研究を実施した。			B 70%以上の教科で指導主要事項を要請した授業研究を実施した。								
				C 50%以上の教科で指導主要事項を要請した授業研究を実施した。			C 50%以上の教科で指導主要事項を要請した授業研究を実施した。								
				D 指導主要事項の授業研究を実施した教科が50%未満であった。			D 指導主要事項の授業研究を実施した教科が50%未満であった。								
③	生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてを力高め、生活や学習上の困難を克服する特別支援教育の充実を図る。	将来の就労に向けて、好ましい人間関係を自ら築くことができるような学級集団づくりを行い、協調性と思いやりの心を育てる。	調理実習や奉仕活動、体験活動を通じて協調性や思いやりの心を育てる。	A 学期に2回程度実施できた。	学年で2回程度実施できた。	3.5	A 学期に2回程度実施できた。	2.9	A 学期に2回程度実施できた。	3.2	実習や校外活動、体験活動を実施し、コミュニケーション能力や社会性を学ばせる事ができた。	本年度は調理室改修のため、実施回数が増えたが、来年度は、実施できる。			
				B 学期に1回実施できた。			B 学期に1回実施できた。								
				C 年間で1回実施できた。			C 年間で1回実施できた。								
				D 実施できなかった。			D 実施できなかった。								
④	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	学校図書館の常時開館を目指す。	ブックヘルパーを活用し、常時開館できる体制をととのえる。	A 毎日開館することができた。	学校は、読書の習慣が身に付くように指導した。中間No.8	3.6	A 2週間に一冊程度本を読む。	2.8	A 2週間に一冊程度本を読む。	3.1	ブックヘルパーの協力もあり、常時開館を実施し、生徒の読書活動の推進を進めた。	次年度も継続して取り組んでいく。			
				B 週3回開館することができた。			B 1ヶ月に一冊程度本を読む。		B 1ヶ月に一冊程度本を読む。						
				C 週2回開館することができた。			C 3ヶ月一冊程度本を読む。		C 3ヶ月一冊程度本を読む。						
				D 週1回開館することができた。			D 本を読まない。		D 本を読まない。						

学校関係者評価	
全体評価	
◎評価の低いところにこだわりのではなく、高いところを特性として伸ばしていくという取組が、大変良いと思います。今後に期待します。	
◎あいさつを積極的に行ってくれる生徒の皆さんが増えてきています。	
◎子どもたちにとっての楽しい学校づくりに努力されている先生方に敬意を表します。	
◎色々なプログラムや講演会をを計画・実行されていて、子どもたちは、いろいろな体験ができ、本当に幸せであると思います。	
◎小中連携の「人間関係づくりプログラム」は、不登校の問題を解決していくためにも有効な取組だと思えます。研究を深めて、成果を出していただきたいと思えます。また、家庭で不登校の子を持つ親が、人には言えず悩まれていると思えます。保護者の方々への理解も進めていただきたいと思えます。	
学校が設定した教育目標・中長期目標・短期目標・指標等について	
◎学校の教育目標が、最終的に「指標」として具体化されて、指導の手だてが明確で非常に分かりやすいです。	
◎中長期目標が具体化されて、短期目標として設定されていると思えますが、同一の目標があります。中長期目標を分割しただけであるように見受けられますので、ご検討願います。	
◎基本的生活習慣を身に付けてこそ、学習や運動に励むことができるので、保健指導の取組の大切さを改めて考えさせられました。	
目標、指標に照らして、学校が取り組んだ自己評価項目（評価基準・教職員自己評価・保護者アンケート・生徒アンケート）について	
◎どの項目も教師、保護者、生徒の評価に差がないが、清掃活動についての生徒と保護者の差がみられます。また、家庭での掃除についての評価が低いようです。実態は、子どもたちは、家庭では、掃除をしない、とされていないのでしょうか。今後の努力目標だとさせていただきます。	
◎職員・保護者・生徒の評価が一致していくよう取り組んでほしいです。	
学校が取り組んだ自己評価結果の考察、次年度改善策について	
◎評価（実態）に基づいての次年度の取組が明確になっています。定着するまで根気よく継続して取り組む他、策はないと思えます。家庭やPTA等との連携のもとに、推進願います。	
◎本年度の地域清掃活動の取組がよかったと思えます。次年度、地域と連携して実施するためにも、ぜひ、日程の調整とお願いいたします。	
◎中学校区全体で、健全な子どもの育成を図るためにも、小中連携を一層、推進願います。	
本校の教育活動、その他の学校運営について	
◎評価が数値として具体化されて分かりやすいので、数値として評価されないものがあるのではないのでしょうか。例えば、清掃指導ですが、教師が子どもと一緒に掃除することで、子どもと話をすることで、子どもの理解を深めることもあってよいでしょう。また、朝の10分間読書で、読書習慣の定着を図るという目的ですが、朝の10分間読書に集中することで、授業に落ち着いた気持ち、雰囲気や臨むという効果もあるのではないかとと思えます。清掃活動や朝読書の成果やよさを、発信してください。	
◎3年の「出前授業」の取組は素晴らしいと思えます。今後も、積極的に推進してほしい。	

基礎・基本

上段・・・達成度
下段・・・重要度

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点	
④	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	朝の10分間読書に取り組み、望ましい読書習慣の形成を図る。	学図書図書館教員	全校一斉の朝の10分間読書に取り組み、生徒の読書習慣の定着を図る。	A 90%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。							年間を通して、全校一斉の朝の10分間読書を実施し、生徒の読書習慣の定着を図ることができた。	朝読書により、生徒の読書習慣の向上が見られるため、今後も取組を継続していく。	
					B 70%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。									
					C 50%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。									
					D 朝読書を真面目に取り組んだ生徒が50%未満だった。									
⑤	集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育を推進する。	キャリア教育（勤労観・職業観）の視点に立った進路指導の充実を図る。	生徒会	生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）への参加意識を高める。	A 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に90%以上の生徒が呼びかけに応じて協力し、70%以上の生徒が呼びかけに応じて協力し、50%以上の生徒が呼びかけに応じて協力し、生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）の呼びかけに応じた生徒が50%未満であった。	生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）に関心を持ち、積極的に参加するよう指導した。最終No.6	2.9	子どもさんは、生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.5	生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.6	たよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を促した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった。	震災復興の支援を計画し、次年度も継続したい。	
					B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を図った。									
					C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。									
					D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。									
	人権教育講演会を行い、人権意識の高揚を図る。	人権教育	人権教育講演会の充実を図る。	A 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った後、全生徒に感想文を書かせた。	人権教育講演会の充実を図った。								植松努氏による講演「どうせ無理を世の中から一掃したい」や渡部昭彦氏のサクセス演奏会を行い生徒がよりよい人権感覚を身につける機会を設定した。	生徒の人権意識がさらに高まるような講演を企画したい。
				B 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った。										
				C 人権教育講演会を開催した。										
				D 人権教育講演会を行うことができなかった。										
	⑥	好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図るとともに、組織的な生徒指導体制の確立（報告・連絡・相談・確認・記録）と家庭・地域・関係機関等との連携を推進しながら、教育活動全体を通して生徒一人一人の自己指導能力を育成し、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。	好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図るため、「対人スキルアップ」の職員研修会を行う、人権意識を培う「人間関係づくりプログラム」を研究開発する。	生徒指導	S、Cや関係職員と連携し、学級担任や生徒指導係が家庭訪問や電話連絡を行い生徒・保護者との関係を構築する。	A 関係職員が週2回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。	生徒が毎日楽しく学校に行けるよう取り組んだ。最終No.1	3.5	子どもさんは、毎日楽しく学校に行っている。最終No.1		毎日楽しく学校に行っている。最終No.1	3.4	電話連絡、家庭訪問を通して不登校生徒の状況把握に努め、職員の共通理解を行った。	電話連絡による家庭との連携が主になっているので、週に1回は家庭訪問を行うような体制づくりに努める。
						B 関係職員が週1回不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。								
						C 関係職員が月に1回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。								
						D 関係職員が不登校生徒宅の家庭訪問を実施しなかった月がある。								
危機管理意識を高める「生徒指導マニュアル・危機管理マニュアル・不審者対応マニュアル」の徹底を図る。		危機管理意識を高める「生徒指導マニュアル・危機管理マニュアル・不審者対応マニュアル」の徹底を図る。	危機管理マニュアルを周知徹底し、危機管理意識を高める。	危機管理マニュアルを周知徹底し、危機管理意識を高める。	A 危機管理マニュアルを配布し、周知徹底するために不審者対応の研修会を行った。	危機管理マニュアル・不審者対応マニュアルなど安全点検を行った。最終No.7	3.1	学校は、施設面や不審者等の外部からの侵入者に対して安全・安心である。最終No.7		2.8	学校は、安心・安全である。最終No.7	3.0	危機管理マニュアルの見直しを行って修正を加え、より充実したマニュアルを作成し、職員に周知徹底した。	内容についての見直しを行い、実際の場面でマニュアルを基に対応できるようにしておく必要がある。
					B 危機管理マニュアルを全職員に配布し、周知徹底した。									
					C 危機管理マニュアルを全職員に配布した。									
					D 危機管理マニュアルの周知徹底に至らなかった。									
⑦		生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を送るための健康教育（学校保健・学校安全・食育）を推進する。	地震・火災を想定した避難訓練、不審者対応の避難訓練を実施する。	安全指導	若松消防署と連携した地震・火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。	A 若松消防署と連携した避難訓練を年間2回実施した。							防災訓練や不審者対応の避難訓練を実施し、啓発に努めた。	次年度も防災訓練や不審者対応の避難訓練を実施し、啓発に努めていく。
						B 若松消防署と連携した避難訓練を年間1回実施した。								
						C 年1回の避難訓練を実施した。								
						D 避難訓練を実施しなかった。								
	食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを身につけることができるような活動を実施する。	給食委員会	牛乳パックの減量化と残食の減量化を推進する。	A 牛乳パックと残食がかなり減量化された。									厚生委員会により、牛乳パックと残食の減量化を促す啓発活動を実施した。	残食を減らすために、厚生委員の先生が給食時にまわるなどしていきたい。
				B 牛乳パックと残食が概ね減量化された。										
				C どちらかは概ね減量化された。										
				D どちらも減量化に至らなかった。										
	⑧	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの構築を図る。	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの構築を図る。	教務	生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開する。	A 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開した。							計画通り、生徒・保護者・職員を対象に年2回のアンケートを実施した。	次年度も継続して取組を行っていく。
						B 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施した。								
						C 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間1回実施した。								
						D 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを実施しなかった。								
学校のよさや特色を積極的な情報発信と学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。		各教科の授業公開を推進する。	常時学校開放と研究授業としての公開授業を設定する。	教務	A 毎月1回以上実施した。	授業公開を行うなど開かれた学校づくりに協力した。最終No.9	3.2	学校は、授業公開を積極的に行うなど開かれた学校づくりに努めている。最終No.9		3.0	学校は、授業公開を積極的に行うなど開かれた学校づくりに努めている。最終No.9	3.3	年間を通して、常時学校開放を行い、ほとんどの教科による研究授業を公開した。	次年度も常時開放し、研究授業を積極的に行っていく。
					B 年間6回以上実施した。									
					C 年間3回以上実施した。									
					D 年間2回以下だった。									
学校のホームページの一層の充実を図る。		学校のホームページの一層の充実を図る。	随時更新する。	情報教育	A 週1回更新した。	学校は、通信やホームページなどを通して情報発信をした。最終No.8	3.4	校長通信（ジャガイモ）や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して学校の様子や分かる。最終No.8		3.2	校長通信（ジャガイモ）や学年通信・学級通信などを読んでいる。最終No.8	2.8	情報教育担当を中心に、随時学校HPの更新をおこなった。	来年度はさらに更新回数ふやしていきたい。
					B 月に2回更新した。									
					C 月に1回更新した。									
					D 更新しなかった。									
校長通信や学年・学級通信等による積極的な学校の情報提供に努める。	校長通信や学年・学級通信等による積極的な学校の情報提供に努める。	校長通信・ホームページ・学年通信・学級通信を通して学校の情報を発信する。	各職員	A 月に2回以上、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。								校長通信・学年だより・学級だよりを定期的に発行し、広く保護者への情報提供を行った。	本年の取組を継続し、一層の充実を図っていく。	
				B 月に1回、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。										
				C 月に1回以上、保護者に配布した。										
				D 月に1回以上、保護者に配布できなかった。										

◎給食の様子はどうか。残食の問題等、大変とおもいますが、よろしく願います。

◎生徒会活動として被災地への支援活動は、是非、今後も継続してほしい。日本人として、仲間として（同胞）の連帯感を醸成することになると思います。その取組の様子を、市民センターで発表願います。

◎青葉市民センターでの文化祭（合唱部）や年末のもちつき大会（バスケット部男子・陸上部部長距離）、春のフェスティバル（合唱部）等、地域行事への参加要請にも積極的に参加いただき、ありがたく思っております。次年度もよろしく願います。

◎校長通信「ジャガイモ」をいつも楽しみに読ませていただいております。今後とも、積極的な情報発信をお願いします。

◎本年度行った植松電機専務取締役植松努氏による講演会「どうせ無理を世の中から一掃したい！」等、今後も講演会活動の充実をお願いします。

次年度への検討課題

◎高須中学校、高須小学校、青葉小学校、3校合同の「義務教育9ヶ年を見通した人間関係づくりプログラムづくり」の研究開発を柱とした小中連携の推進、被災地への支援活動「人生一冊プロジェクト」、「地域清掃活動」「ケース会議」「子育て井戸端会議」を積極的に取り組んで参ります。

◎10月、中村文昭氏講演会「一つの出会いが人生を変える」、11月、助産師内田美智子先生による生教育講演会等、講演会活動の一層の充実を図ります。